

備北だより

第五号
 (発行) 備北百人委員会
 (運送先) 大阪市東区玉津
 三丁目
 東成玉津郵便局留
 振替口座 大阪 79064

この試みが終わる時——

それは新しい出発の足がかりを残す

そ・し・て、今、我々は……

連休キャンパも後半をむかえた5月3日、京都・大阪・広島から6名がキャンパに加わった。京都から参加した沢田君—三月キャンパで、百人委のメンバーとして世話役をひきつりながら、二日めに帰ったという彼はその時の問題を「はっさりさせようとして再度積極的に話し合いを呼びかけ、その結果、出発したばかりの備北共同体が内包している問題が洗いざらい、白田下にさらされることになった。

現在、備北共同体に見解の相違対立が認められるなら、それがどこから起ったものかを考へるため、最初に、これまでの経過を確認された。まず一昨年暮れ頃、今井氏と関西キスリ読者会現コミニがきき者のメンバーが「知り合い」、昨年三月の五月のキャンパは、互いに意見をかわしたり、共同体観を尋ねあつ

ほとん 評価されていなかっただけが明らかになった。連休だから来たんだらう」とか「夏休みだから」という評価しかなく、共同体運動を志向してやってきたにキャンパーたちから、「今まで何をしてきたのかわからなくなってしまう」という声がかかれた。

夏のキャンパの残したものは……

とくに今井氏のキャンパ観を決定的にしたのは、夏キャンパで「たようだ、夏キャンパ以後、彼の「キャンパに何も期待していかない」という表現は「キャンパに求めてもらっては迷惑だ」というふうに変っていった。いずれにしても、もっとも重要な点は、彼のそのようなキャンパ観が語られることなく、お互いにつきつめ合うことなくきてしまったという事実で

たりの、要するに見合いの時期だったと語られた。そして夏キャンパの頃からキャンパーの方で備北を主体的に自分たちの共同体にしていくとか、ワーク・キャンパをそのための運動としてとりはじめていた。ところが今回の話し合いで、ワーク・キャンパは今井氏にとって

ある。「キャンパに来てもらうと迷惑だ」という考えは、「キャンパは学生が遊びで来るようなもので、自分の生活が乱されるし、自分はその遊びの尻ぬぐいばかりせねばならなくなっている」という一語がよく表わしている。これは、この話の発展上で語られた「俺は学生運動や学生運動家は信用しない。親のスネをかじっているから、好き勝手なことをして、バクられたら親から保険金を出してもらつような甘さ」という今井氏の発想に基づいている。このようにしてキャンパー及びキャンパ運動、さらには共同体運動までもが、「学生的甘さ」「運動的甘さ」……によって、「信用できない」というようになっていった。

「それにしても、備北でキャンパを持ったといつこと、今井さん自身が何を得たといつものがあるのではありませんか。たとえば知らない人と知り合えたとか、生活必需品がそろったとか、期望が進んだといつような……」といつ一キャンパーの質問にも、とうとう積極的な肯定は聞けなかった。

キャンパを計画した側にとって「夏キャンパ」がまったく別の意味で決定的な節を画したことはちがいはなかった。一つは備北での共同体のイメージの明確化、即ちヒッピー・コミニの要素からの脱却と生産共同体としての自立の追求、二つに農業共同体にとっての農業問題の把握、三つにワーク・キャンパに参加した人たちから主体的に共同体運動を展開していくことである。そしてその連絡紙として備北だよりが発行され、運動主体としての「百人委員会」構想もこのころから考へられはじめた。

「百人委」構想を話し合った当初、今井氏は「そうなる自分はずいぶん気楽になる。今のままだと、キャンパに来る人は来るだけで、自分がほとんど農業計画から生活のことまで一人で面倒をみななければならないようだった」と語って

いた。そしてその「百人委員会」は、いわゆる「百人委員会宣言」とともに、今年の正月キャンペーンで世の中に誕生した。備北が共同体運動の中からはっきりとどうやらははじめたのが、夏キャンペーン以後であったのはすでに記したが、それにとりまわって、共同体運動の

拠点としての備北を主体的に維持発展させていくために有志が集ったのが、正月(ヌタデ)キャンプであった。そこでは、備北三年目の備北共同体のすべての面にわたる具体的イメージについて詳細に話し合われた。その内容は、「われら共同体志願者」というパンフレットに書かれている。この正月キャンプで五人の常駐者(その後病気で下げて現在四人)がはじめて名乗りをあげた。

百人委員会の二原則

一運動であって組詰でない

二不可欠な部分が全体を構成する

「百人委員会」には二つの大きな原則が考えられていた。一つは、それは運動であって組詰ではないということ。運動を継続・発展させていくための事務活動はあるが、それ以外のなんらの強制力も持っていないということ。二つめに、世間にも多くあるようないわゆる支援団体に属してはならないこと。即ち、百人委員会が共同体運動という視点をもつことによつて、共

たのが、正月(ヌタデ)キャンプであった。そこでは、備北三年目の備北共同体のすべての面にわたる具体的イメージについて詳細に話し合われた。その内容は、「われら共同体志願者」というパンフレットに書かれている。この正月キャンプで五人の常駐者(その後病気で下げて現在四人)がはじめて名乗りをあげた。

対必要不可欠な部分であらうしめることによつて全体を構成しているという考え方が盛り込まれている。何故、それが必要かという点、実際に共同体に住んでいる人しか共同体運動について語り得ないとしたら、共同体運動の人民的理想はほとんど絶望的であり、固い決意をもつて共同体に住みこむ一部の英雄にその未来をかけるようなものだからである。

駐者と呼んでいる人達と今井氏の間に持ち上がった問題である。

暗転

その次にくるものは

それは一つに「労働契約及び生活契約」の問題である。相互扶助の約束事「百人会」を脱走してどうするか?と懸念して、1生産に関する分担 2生活様式 3会計目由などすかい¥2000000、パイ

の最低70%は共同サイフ△4 ワークキャンプに前してワークキャンプは呼びかけない 5広報のしかり個人の立場で 販売の説明 宣伝(1) 6人数常駐者3人くらいに限る。早急にカ2カ3を捜して(1)と(2)それはまず秋岡氏との間に持ち上った。「善意にとればそれは、これからの仕事や生活のやり方を今井さんなりに考えて提案したもののようにもとれたが今井さんが一人で作ってあきながら二人の名前がサイフとしてあった。それがどうにも理解し難く、て逆けることを拒否した」と秋岡

氏は述べている。尾関氏の時にも同じようなことが話された。「はくにも同じようなものを作るんですが」「うん」「それはここで共同生活をするにあたり、この提案なんです」「いや、そうじゃなく、こうやっていかなくちやいけんのじゃないかという」「いすねにしても、ぼくは許されてここに住むのは嫌ですから、内容のいかにかわらねば拒否しますから作らんでもええよ」という会話が交わされた。結果として、形としてこの「契約書」は実現しなかったが、そこに盛り込まれていた仕事の間担は、そのまま引き継いで行なわれることになった。即ち、野原・シイワチ・栗・今井・鶴・秋岡より重要なものは、これが単に仕事の間担にとどまらず、その生産物及び生産手段の所有にも結びついていったことである。それは、ホ二の決定的な問題「共同財布」の問題とも関係している。

よし、共同財布

よのつやあっていけん

共同生活を共同財布でやっ... 正用キヤンブでも確... 認められたことであるが、われわれ... のやわつとしていふことが、共同... 体運動である限り、当然である... 考えられていた。...

いしという意見が出された。その... 時は「君が家族をつくったら、君... の収入を家族の収入とするやう... し、まさか一人一人が財布を持... ことはないやう。共同体も一つの... 家族や。共同体は、そのよつな血... 縁だけを人間の信頼のきずなとす... る考えに対して、も、と別な所... ぎずなを求めようとするものちや... うが」というよつな所を一段落し... た。しかし、表面的な了解はど... であれ、少しも納得されていなく... ったために、同じ問題が五月(連休... キヤンブで再び持ち上った。たのこ... る。そのために連休キヤンブでは... 今までの話し合いの失敗をくり返... すことなく、表面的で不明確なま... ま終らせることのないよつに、徹... 底的に話し合う努力がなされた。... として、この結果、備北共同体運... 動は、備北両拓の地を離れること... になった。

今回のキヤンブはいろんな意... 味で特殊なキヤンブになったた... め、僕の理解できる範囲内でキ... ヤンブに關してのみ簡単に報告... しておきます。... I. キヤンブの具体的準備につ... いて—①キヤンブ期間は、参... 加者の事情を考へて連休(2日... 夕)にした。前回のよつな参加... 期間を限定しなかつ... たのは、キヤンブ期... 間が短いこと、例... えば振業をもつて休... る人たちのことを考... へ、より広範な参加を期待した... からである。

②呼びかけは、時局的な問題... もあり、百人妻の名義と風山大... へのピラマキ(6枚ぐら)をやった... 広範な参加を期待したわりには... 呼びかけのための活動が十分で... きなかつた。... ③キヤンブを呼びかけた目的... は、備北の地への後援という単... なる労力キヤンブとしてではなく、... 備北共同体運動の一つのあり方と... してのワーク・キヤンブを追求す... ること。

④参加者は17名(男12名、女5... 名)新参加者6名、ハスウェーデン... 人1名。... ⑤仕事は、鶏舎作り、柵作りな... ⑥キヤンブの内容について—... 備北共同体運動全般の問題点に... ついて語られた。その結果、キ... ヤンブ自身が二つの性格をもつ... ものになった。前半は相互理解... がワーク・キヤンブ運... 動のもつている問題点... にまで深められず、ま... た、後半もワーク・キ... ヤンブの問題点の提起... といふ形で発表したが、備北共... 同体運動の内包している矛盾が... 表明化し、結局、前半と後半が... 結び合わなかつた。... そのため、今回のキヤンブが備... 北共同体運動の中で重要な場を... 提供したにもかかわらず、運動... の中でのキヤンブの位置につい... ての十分な討議や論理化がされ... ず、次にもちこまれた。

表面化した矛盾

運動の中での位置関係

秋岡吟